

第2学年1組 道徳科学習指導案

日 時：平成30年7月12日（木）5校時

場 所：第2学年教室

指導者：教諭 武田 ゆう子

1 主題名 友達のために B－（9）友情・信頼

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領で示されている指導内容の「友達と仲よくし、助け合うこと」と関連のある項目である。

児童にとって、友達は、家族以外で特に関わりを深くもつ存在であり、社会において人間関係を築く上での基盤となる。小学校生活にも慣れ、遊び仲間として影響し合いながら生活している児童にとっては、友達との関わりは重要になってくる。

より良い友達関係を築くためには、互いに認め合い、様々な学習活動や生活場面を通して理解し助け合い、信頼感や友情を育てることが大切である。自分から仲良くしようと努める気持ちや、友達の気持ちを推し測る姿勢、お互いに協力し合い助け合う行動の大切さを感じ取る態度が、より良い人間関係を築く上で必要なことだと考える。

（2）児童について

本学級は、男子8名、女子5名、計13名の学級である。1年生が入学したことで、進級し一つ上級生になったという自覚をもって、学習や遊びに意欲的に取り組んでいる。

本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

（6月8日実施 男8名 女5名 計13名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている） C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
正しいと思うことは勇気を出して行う。	7	5	0	1
うそをついたりごまかしたりしないで明るく元気に生活する。	5	5	3	0
友達と仲良くし、お互いに助け合う。	11	2	0	0
よく考えて行動し、あやまちは素直に認める。	8	5	0	0

以上のような結果から、友達と仲良くし、助け合うことが大切だという意識が比較的高いことが分かる。友達が忘れ物をした時は「ぼくの〇〇を貸すよ」と言ったり、掃除の時間には「早く終わったから手伝うよ」と言って進んで手伝ったりするなど、協力しようとする姿が度々見られる。一方で、「正しいと思うことは勇気を出して行う」の項目でDを選択した児童が1名、「うそをついたりごまかしたりしないで明るく元気に生活する」の項目でCを選択した児童が3名いた。さらに、日常生活において、友達が困っていても気に掛けない、友達に話し掛けられても答えない、自分の非を素直に認めないといった姿も見られることから、意識はあっても行動が伴わない児童もいると考えられる。

(3) 教材について

- ① 教材名 「ともだちやもんな、ぼくら」 出典：「新しいどうとく 2」 東京書籍
- ② 価値 B- (9) 友情, 信頼
- ③ 教材について

「ぼく」とマナブとヒデトシの、仲良しの男の子3人の話である。近所のかみなりじいさんの家にある木に登り、かぶと虫を捕ろうとしていたのだが、見つかって怒られてしまう。3人は逃げ出したが、ヒデトシが転んでしまい、そのままヒデトシ一人を置き去りにしてしまった。ヒデトシを助けに行くかどうか、どうしようか、「ぼく」とマナブは悩んだ末に、ヒデトシを助けに行く決心をして謝りに行った。すると、かみなりじいさんは怒らずにむしろ褒めてくれ、友情の絆が深まったという内容である。

「ぼく」とマナブがヒデトシを助けに行こうと決めるまでの心の葛藤について、様々な状況を提案することで、児童の考えを引き出し、自分ならどのような行動を取るかについて考えることを通して、本時のねらいについて考えることができる。

- ④ 教材分析 (別紙)

(4) 研究の視点

【視点1】 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

① 役割演技

- ・教師が「ぼく」の役を演じ、児童にマナブ役を演じさせる。児童の発言に対して同意しない「ぼく」を教師が演じたり、3人の関係や状況の設定を変えたりすることによって、葛藤を感じながら自分で判断することができるようにする。

② 心情スケールの活用

- ・もし「ぼく」が自分だったら、ヒデトシを助けに行くか行かないかを考えさせる際に、心情スケールにネームカードを貼り、自分の考えがどこに位置するか、なぜそう考えるのか理由を明確にして話せるようにする。

③ 「あすなろノート」の活用

- ・意見を交流させた後、友達との付き合い方について、これまでの自分を振り返ったり、これからの自分について考えたりしたことを書かせることによって、自己理解を促す。さらに記述したことを交流させることによって、他者理解を深めることができるようにする。

(5) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本時では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言1, 2を踏まえ、児童の考えを取り上げて、ほめたり、認めたりする。

提言3, 4を踏まえ、本時はどんなことを考えるかを一人一人にしっかりと把握させるとともに、自分の生活を振り返る時間を設定し、自分の考えをノートに書かせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

身近にいる友達と仲良く過ごし、助け合っていこうとする態度を育てる。

(2) 準備物

①教師 : 掲示用挿絵 心情スケール ネームカード コミュニティボール

②児童 : 教科書 「あすなろノート」 筆記用具

(3) 学習過程

段階		学習活動 (◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価 (方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前		【朝の活動】 ・資料の読み聞かせを聞き、大体の内容をつかむ。 ・友達と助け合ったことについて、「あすなろノート」に書く。	・場面設定や登場人物について、補足説明することで内容を捉えやすくする。 ・具体的にどのような経験があるのか、児童の記述を本時まで確認しておく。 【提言4】
本時 導入 5分		1 友達と助け合ったことについて想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○友達と助け合ったことを発表しましょう。</div> ・友達が忘れ物をした時に貸してあげた。 ・けがをした時に、「大丈夫？」と声を掛けた。 ・勉強で困っている時にヒントをあげた。 ・グループで協力して活動した。	・具体的な状況だけでなく、その時の気持ちについても答えを促すようにする。 【提言1・2】 ・友達の良さについて説明することで、ねらいとする価値へと方向付ける。
展開 30分	価値理解 人間理解	2 資料の内容を確認する。 ・資料を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○「ぼく」は、(どうしよう・・・, どうしよう・・・)と何を悩んでいるのでしょうか。</div> ・ヒデトシだけおいてきてしまったから、悪いな。 ・かわいそうなことをしてしまった。 ・助けに行かなきゃと思うけど、怖くて行けない。 ・正直に謝った方がいいと思うけど、おじいさんが怖いから迷っている。 ・やっぱり、怒られるのがこわい。	・黒板に掲示用挿絵と台詞や場面の流れが分かるように貼り、内容を確認できるようにする。 ・数名の発言をもとに、「ぼく」の心の葛藤について、黒板にキーワードでまとめる。 ・次の役割演技に続く重要なところなので、「ぼく」の悩みを、様々な角度から明確にする。

	<p>○「ぼく」とマナブで役割演技をして、2人の気持ちを考えましょう。</p>	
人間理解	<p><助けに行こうとする考えの場合> ぼく ヒデトシを助けに行こうよ。僕たちだけ逃げるのは、ずるいことだよ。僕たちは友達でしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がマナブ役を演じることで、問い返しをしたり揺さぶったりして、見ている児童にも二人の心の葛藤を理解させる。
他者理解	<p>マナブ かみなりじいさんが怖くて行けないよ。 マナブ ぼくは、習い事に行かなきゃいけないから帰るよ。 マナブ 大丈夫だよ。ヒデトシはきっと一人でちゃんと謝って許してもらっていると思うよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・怖じ気づいているマナブをどう思うか考えさせる。 ・自分のことしか考えないマナブをどう思うか考えさせる。 ・楽観的なマナブをどう思うか考えさせる。
人間理解	<p>マナブ ヒデトシが転んだのが悪いのだから、放っておこうよ。 <助けに行きたいが、勇気を出せないという考えの場合></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は悪くないとするマナブをどう思うか考えさせる。 ・大事なことを理解していても、行動できない弱い気持ちがあることについて、触れるようにする。
他者理解	<p>ぼく ヒデトシを助けに行きたいけど、おじいさんがこわくて行けないよ。 マナブ 怖いなんて言っていられないよ。ヒデトシは大事な仲間だよ。助けに行こうよ。 マナブ ヒデトシだって、僕たちのことを待っているはずだよ。 マナブ 正直に謝れば、おじいさんはきっと許してくれるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間を大切にしようとするマナブのことをどう思うか考えさせる。 ・一人で待っているヒデトシの気持ちを考えさせる。 ・正直に謝ることについてどう思うか考えさせる。
自己理解	<p>◎自分だったら助けに行きますか、それとも助けに行きませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けに行く。 ・助けに行かない。 <p>・怒られるのは怖いけど、友達だから助けに行く。 ・謝って許してもらおう。 ・いつでも3人一緒だから、怒られることも一緒だ。 ・ヒデトシはきっと助けに来てほしいと思っているはずだから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心情スケールをもとに、ネームカードを貼ることで自分の考えを明確にする。 【提言1・2】 ・意思表示をした後に、考えた根拠を発表させるようにする。 ・かみなりじいさんが怖くて勇気を出せない気持ちと、それでもヒデトシを助けに行かなければいけないと思う気持ちの、両方の考えを認めるようにする。 【提言1・2】 <p>◇資料を通して考えたことを、自分のこととして捉え、自分だったらどうするかという立場で考えていたか。(発言、表情)</p>

		<p>○友達と助け合うのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達は大切だから。 ・友達だったら支え合う。 ・友達に優しくしたいから。 ・友達に優しくすると、いい気持ちになるから。 ・助け合うと、もっと仲良くなれるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、友達に助けられてうれしかったことや、支え合うことでうまくできたことなどの経験を話し、児童に助け合ってよかった経験を想起させる。 ・友達と助け合うのはなぜか、理由を考えさせることによって、普段の学校生活へもつなげられるようにする。
まとめ 10分	自己理解	4 友達とのつき合い方で、考えたことや心に残ったことをノートに書く。書いたことを発表し合い、互いの考えを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、友達とどのように生活してきたか、またこれからどんなことに気を付けて友達と生活していくかについて、考えを書かせることで、ねらいとする道徳的実践への意欲を高める。 <p>◇友達と助け合うことのよさについて、自分のこれまでの体験から考えていたか。(ノート, 発言) 【提言3・4】</p>

(4) 評価

○資料を通して考えたことを自分のこととして捉え、自分だったらどうするかという立場で考えていたか。(発言, 表情)

○友達と助け合うことの良さについて、自分のこれまでの体験から考えていたか。(ノート, 発言)

(5) 板書計画

友だちとたすけあうこと

- ・友だちはたいせつだから。
- ・友だちだったら、ささえあう。
- ・友だちにやさしくしたいし、やさしくされたらうれしいから。
- ・友だちにやさしくすると、いい気持ちになるから。
- ・たすけあうと、もっとなかよくなれるから。

心情スケール

挿絵

でもやっぱり、おこられるのがこわい。

よわいころ

どうしよう・・・ ↓まよい

ヒデトシがかわいそう。たすけに行かなくちゃ。

わるいことをしたのだから、正しきにあやまろう。

三人はなかよし

ともだちやもんな、ぼくら

ぼく

ヒデトシ ↓ころんでしまっ、おきざり

マナブ